

ハ、積極的階級の養成

之れである時に關し養成に依り困難する問題であるが、その対象として青年である。青年はそれ自らの不事上理論的誤謬の犠牲となり易い傾向を持つ。彼等の特微的能力「破壊的能動力」を正しき階級戦線上に發揮せしむるに役立つ指導教育は最も重要な項目の一つである。地方青年に對する教育の誘引は親ガ子の一人旅を危ぶむ様態には克服されなければならぬ。

四、教育の方法

一、教育の方法は当然上述の如き教育の目標及び方面の相違に依りて異なる。例へば一般未組織大衆の覚醒には演説会講演会等が利用される。紀合員一般の爲には労働學校を便利とする。あつて關し春成の爲には研究会に據るが如きである。凡て集會の形式は依る所の教育手段は其の性質を以て異なり、其の利便なるものでもあるが目的に依りて其の組織方法及び内容を決定して行はば、何等無益と化する場合がある。例へば未だ意識の無い未組織労働者の集る演説会では、實際運動の地獄と成り居る大学教師の「討論會」等は、第一等は禁物たる符

三、集會教育を尤めぬ今更なる

角はけんと欲する労働者を以て却つて絶望せしめ、其の希望を永久に吾等の演説会場から安んずる小屋へと追ひやつてしまふであらう。  
二、文書による所の教育法に於ても同様なる事が云へる。一般労働大衆に読ませるものと簡易養成に役立つものとの間には、内容に於て相違がある。前者が本報はならぬ事は当然の事だ。機関誌、パンフレット、ビラ、リーフレット、ボスター、壁新聞、ニュース、指令等々吾等が出版物の凡ては絶大なる教育的価値をもつものであり、又またしのめばならぬものだが、その価値は内容の質と表現の方法とによつて定まる。大抵に於て現在までの吾等の間に於ける出版物の第一の缺點は読むものを不愉快として驅かれて居ることであつた。言葉は代へて言へば、読者に鮮からうと驅るまいと筆者の智識が見せびらかせてある。其れでよいことになつて居た。労働者が統制し得る出版物の範圍に於ては、今後この弊を排して、出版物による教育の合理化を漸行しなげればならぬ。その方法の一つとして組合の出版部に労働者検閲係とでも言つた、委員を置き重なる出版物の原稿はその内容を受けしめることである。